

2026 年 9 月 29 日

日本国際経済学会会員各位

関東支部新春特別シンポジウムと第 4 回学生研究報告会のご案内

拝啓

日本国際経済学会会員の皆さまにおかれましては、益々ご清祥のことと存じます。本年度 1 月の関東支部に於きまして、新春特別シンポジウムと第 4 回学生研究報告会を下記の通り開催いたしますので、ご案内いたします。

開催日時：2027 年 1 月 9 日（土）

第 4 回学生研究報告会：午後 1 時 30 分～午後 4 時 10 分

休 憩：午後 4 時 10 分～午後 4 時 30 分

新春特別シンポジウム：午後 4 時 30 分～午後 6 時 10 分

第 4 回学生研究報告会表彰式：午後 6 時 20 分～午後 6 時 50 分

懇親会（会員と報告学生）：午後 7 時 00 分～午後 8 時 30 分

会場：日本大学経済学部（水道橋）

新春特別シンポジウムでは、登壇者 3 名が各 20 分間の報告を行い、5 分間の休憩の後に 35 分間の全体質問を行う予定です。学生研究報告会に参加した学生を新春特別シンポジウムに招待します。

学生研究報告会の詳細は下記の通りです。

応募資格：関東支部会員の推薦を受けた学部生。原則として、同一のゼミ・研究室からの応募は、1 個人または 1 グループまでとする。なお、共同指導等の特段の事情がある場合には、準備委員会の判断により複数の応募を認めることがある。該当する事情がある場合には、応募フォームの備考欄にその旨を記載すること。ただし、応募数が多数にのぼる場合には、公平性および運営上の観点から、同一ゼミ・研究室からの複数応募は原則として認めない。

応募方法：報告希望者（またはグループ代表者）が特設 HP からオンラインで申し込む。報告タイトル、氏名・所属、連絡先（メールアドレス）、推薦会員の氏名・所属、報告希望分野（準備委員会の判断で変更する場合がある）、報告言語（英語または日本語）、参加者数・参加方法、旅費補助の希望等を入力し、要旨（日本語 1,500 文字、英語 750words）を提出する。

報告分野：国際経済に関する①理論研究 ②実証研究 ③事例研究（ケーススタディ）

応募開始：2026 年 11 月 4 日（水）

応募締切：2026 年 12 月 7 日（月）

採択結果：2026 年 12 月 15 日（火）

実施方法：原則、会場でのプレゼンテーション

報告時間：10 分（10 分間の報告後に 3 分間の交代時間を設ける）、質疑応答はなし。ただし、会場を分けて報告を実施する場合、5 分間の質疑応答時間を設けることがある。質疑応答は対面参加者、オンライン参加者の順で受け付ける。時間の関係で対応できなかった質疑も含めて、コメントを Google Form で受け付け、報告代表者と推薦者に送付する。

参加資格：会員と事前登録した非会員（学部生や大学院生の参加を奨励）

その他：

○原則として、すべての報告を 1 会場で合同実施する。ただし、報告申し込み数が多数の場合には、プログラム委員会の決定により、申し込みが多数の分野で選考を行うこと、もしくは会場を分けて報告を実施することがある。選考を実施する場合、その分野と当該分野の報告数はプログラム委員会が決定し、選考方法は当該分野で報告を推薦した会員による無記名投票とする。会場を分けて報告を実施する場合、その分け方はプログラム委員会が決定する。

○すべての報告者に参加賞として記念品を贈呈する。

○「最優秀賞」の授与

各会場の報告から「最優秀賞」を 1 つ選出し、賞状を授与する。選出は当日各会場に参加した関東支部会員の投票により行う。会場を複数に分けた場合には、複数の最優秀賞が授与される。

○「学生研究奨励賞」の授与

各会場の報告分野ごとに「学生研究奨励賞」を 1 つ選出し、賞状を授与する。選出は当日各会場に参加した関東支部会員の投票により行う。「学生研究奨励賞」は分野ごとに選出する。

○「ベストテーマ賞」と「ベストプレゼンテーション賞」の授与

各会場の報告から「ベストテーマ賞」と「ベストプレゼンテーション賞」を 1 つずつ選出し、賞状を授与する。選出は当日各会場に参加したすべての参加者の投票により行う。

○最優秀賞、学生研究奨励賞、ベストテーマ賞、ベストプレゼンテーション賞の重複受賞はない。

○審査項目

審査項目は、①テーマの重要性や独創性、②プレゼンテーションの分かりやすさ（質疑応答があった場合は、報告と質疑応答の双方）、③論理的かつ正確な分析力とし、各項目 1 ～ 5 点で評価する。審査項目を使用した評価は、最優秀賞と学生研究奨励賞の選出のみを対象とする。

○遠方から参加する学生（1 報告につき 1 申請）に旅費（交通費）補助を支給する。

北海道：旅費の補助として 3 万 5 千円を上限とする実費。

北東北（青森、秋田、岩手）：旅費の補助として 3 万円を上限とする実費。

南東北（宮城、山形、福島）・新潟：旅費の補助として 2 万円を上限とする実費。

静岡・長野・栃木・群馬：旅費の補助として 1 万 5 千円を上限とする実費。

山梨・茨城：旅費の補助として 1 万円を上限とする実費。

*一都三県からの参加者には旅費補助は支給されない。大学から補助がある場合は原則併用不可とするが、大学からの補助だけでは不足する場合には補助対象とする。希望者は応募時に申請すること。

敬具

学生研究報告会準備・プログラム委員会

井尻 直彦（日本大学経済学部）

倉田 洋（獨協大学経済学部）

小森谷徳純（中央大学経済学部）

笹原 彰（慶應義塾大学経済学部）

道満 治彦（神奈川大学経済学部）

戸堂 康之（早稲田大学政治経済学術院）

細井 長（国学院大学経済学部）

溝口 佳宏（帝京大学経済学部）

棕 寛（学習院大学経済学部）

蓬田 守弘（上智大学経済学部）

日本国際経済学会関東支部

支部代表 乾 友彦（学習院大学国際社会科学部）

支部事務局 羽田 翔（日本大学法学部）